

大地震が発生したらまず自分の身を守る
揺れが収まったら真っ先に火の始末で火災防止

2016年1月20日発行
柳谷戸支隊 情報・広報班

代表支隊長 小林 洋美

防災についてのアンケートにご協力をお願い

明けましておめでとうございます。本年も防災活動にご協力のほどよろしくお願い致します。
今回は、昨年実施したアンケート調査から1年経過した現在、皆さんの大地震に対する「自助」の備え（準備、備蓄等）がどの様に変化し、進んだかを把握することが目的です。

防災隊では、調査の結果や隊員の皆さんのご意見を聞きながら、地域全体の防災力（減災力）のレベルアップを目指しており、その対応に資するために別紙アンケートにご協力お願いします。

<アンケートについてのご参考>

1. 家屋の耐震診断補強について

この件は、昭和56年5月31日までに建築許可を取得し建築された家屋は、大地震が発生した場合には倒壊の危険性があり耐震診断、補強が必要といわれている問題です。

町田市は一戸建木造家屋に対して耐震診断・補強に補助金制度を設けています。

その他の建築型式の家屋耐震についてはそれぞれの建築会社に確認して欲しいとのことです。

2. 感震ブレーカーの設置をお勧めします

この感震ブレーカーは、ある一定の震度以上の地震の揺れを感知した時には自動的に主幹ブレーカー（元スイッチ）を遮断して電気に起因する火災を防ぐ役割をするものです。

阪神淡路大震災では285件の火災が発生しその原因が特定された139件の火災の85（61%）が電気に起因した火災であったと報告されています。

以後「感震ブレーカー」の開発が進み、設置が呼びかけられてきましたが、依然として認知度が低く設置が進んでいないのが現状です。

一方政府は昨年春、首都直下地震や東南海トラフ巨大地震が想定される首都圏など15都府県の一部地域を対象に防火対策として新築家屋に対し「感震ブレーカー」の設置を求めたとの報道もありました

柳谷戸支隊では、既に「支隊だより」で「通電火災」や「放任火災」の防止対策として設置をお勧めしており、大地震発生時の防火対策には最も効果のあるものと考えます。

感震ブレーカーの種類も値段もいろいろですが、既存家屋では構造も取り付けも簡単で値段も千円台～4千円程度の物がお勧めです。ご家庭の状況により選択して下さい。

3. 非常時の生活用水について

非常時には飲用水に加えて生活用水の備蓄も必要となります。

備蓄方法もペットボトル、雨水タンクや貯水タンク設置、またはエコキュート等の給湯タンクを非常時の生活用水にするなどいろいろな方法が考えられます。風呂水の溜めおきも非常に有効です。

備蓄量の目安は町田市ホームページ防災欄では次の様に述べています：

- ◆水の備蓄は飲用水と生活用水に分けて考える。
- ◆一般的に、1人一日10リットル程度の水が必要と考えられます。
- ◆10リットルの内、飲用水（煮炊用を含めて）として一人一日3リットルを目安に備蓄しましょう。

即ち町田市は、生活用水一人一日7リットル程度を想定していますが、被災状況により大きく影響されます。生活用水は出来るだけ多くの備蓄を考えましょう。

以上